

2017/9/25/-10/1

デボーションガイド 「ユースマナ」

詩篇 27:4

私は一つのことを主に願った。
私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。

2017/9/25(月)

エゼキエル 22:17-31

神様は、イスラエルの国が価値ある金属のようだったのに、今は金属のかす「かなかす」のようになってしまったと言ったよ。それは預言者、祭司、首長、一般の人にいたるまで皆んな自分のことしか考えないで、人を傷つけても何も思わない残忍で墮落した生活をしてきたからなんだ。神様はそんな国でも城の破れ口を修理するように、国の問題のために祈る人を探したけど、見つからなかったんだ。もし祈る人がいたら希望はまだあったけど、いなかったので滅びに進んだんだよ。きみにいる学校、地域に変だとか嫌だなど思うことあるかな？神様はきみに、そのことを祈ることを期待しているよ!!!

2017/9/26(火)

エゼキエル 23:1-28

オホラとオホリバの物語は、サマリヤを首都とする北王国イスラエルとエルサレムを首都とする南王国ユダの姿を現しているよ。北王国は神様ではなく、アッシリヤに頼ってアッシリヤに滅ぼされ、南王国は、アッシリヤ、バビロン、エジプトに頼り最後は滅んだんだ。神様は、それは夫を裏切る姦淫の罪だと言って、とても心を痛めたよ。愛が冷めたならねたむ必要も無いけど、神様はそんな状態のイスラエルに「わたしはあなたをわたしのねたみとする」と言い、悔い改めと立ち返りを願って愛を失うことは無かったんだよ。イスラエルのように神様より違うものを頼りしていないかな？？永遠の愛を持って愛して下さる方に頼ろう!!!

2017/9/27(水)

エゼキエル 23:29-49

南王国ユダへのさばきが繰り返し語られる。姉オホラ(北王国)が飲んだ杯を、妹オホリバ(南王国)も飲むようになる。それは恐怖と荒廃の杯と呼ばれた。イエス様は、私たちに代わってその苦い杯を飲んでくださった。それは「この杯をわたしから取りのけてください」と言うほど飲むのが辛い杯なのだ。民は、聖所に偶像をまつたり、異教徒を招き入れ、彼らの宗教に倣い同化していった。さばきは神の怒りの結果ではあったが、神はさばきの後、エルサレムの残りの民とバビロンの捕囚の民が、この教訓に学び、神に立ち返ることを願っておられた。それは、イスラエルの滅亡の先に、再興の希望が残されていることを示唆している。主はいつでも私たちが立ち返ることを願っておられる。

2017/9/28(木)

エゼキエル 24 章

今日の箇所は、一章から始まるエルサレムの罪と滅亡の予告の最後の部分である。「なべ」はエルサレム、「火」はバビロンの包囲攻撃、「肉の切れ」はエルサレムの住民を意味し、エルサレムの崩壊の悲惨さを、煮えたぎる錆ついたなべにたとえた。これは、エルサレムの全住民がさばきを受けることを意味した。そしてこの予言が告げられた夕方、エゼキエルの妻が死んだが、神は悲しみ、喪に服することを禁じたので、エゼキエルは命じられたとおりにした。そして、捕囚仲間、彼のこの行動に興味を持ち尋ねた。それはエルサレムの滅亡を伝えるためであった。エゼキエルを通して滅亡の本当の意味を知った民は、やがてエルサレムからくるとどうほうの民に、主への悔い改めを促す者となるのである。私たちはクリスチャンとして生かされている使命がある。あなたが今神様を信じている者としてするべきことはなんだろうか。

2017/9/29(金)

詩篇 135 篇

これはイスラエルの民に神を賛美するよう呼びかけている歌です。また、賛美をする理由が多く書かれてる。イスラエルを選んでご自分の宝とされた事、自然の中で偉大さを表している事、イスラエルの民が奇跡によってエジプトを脱した事、その後約束の地であるカナンの地が与えられた事、最後にどんな偶像にもまさる神だからです。イスラエルの民は神様が全人類の救いを成し遂げるために用いられた民です。そしてクリスチャンも「神のイスラエル」(ガラテヤ 6:16)と呼ばれ神に喜ばれた者です！この事から神様に感謝し、クリスチャンである私が選ばれている事を信じよう！今日は私を用いて下さい！と祈ろう！

2017/9/30(土)

詩篇 136 篇

今日の箇所は、神様に感謝することを励ましている箇所だね。慈しみ深く、恵みを与えてくださる素晴らしい神様自身に、この地を造られた神様のわざに、出エジプトでの神様の導きに、1人ひとり与えられている恵みに、この章だけでも何回も「その恵みはとこしえまで」と繰り返すくらい神様への感謝を表した。私たち1人ひとりに今も神様は心を留めて、助け、導いてくれている。自分に神様がしてくれたことをたくさん思い出して1つ1つを感謝しよう！

2017/10/1(日)

詩篇 137 篇

今日の箇所では、イスラエルの人がバビロン捕囚の悲しみを歌っています。バビロン捕囚の時、イスラエル人は敵から屈辱を受けたが、それに対して彼らなりに証をしていました。イスラエル人の行動の全てを神様は知っておられました。彼らがどれほどまでにエルサレムを熱望し、敵に対して怒りを持っているかも知っておられました。現代でもそれは同じです。私たちが日々感じる怒りや悲しみ、不安や喜びなどは神様も同じよう知っていてくださいます。神様は理解してくださっています。その理解者である神様に今日も自分の気持ちを打ち明けましょう。また神様を日々知っていきましょう。

